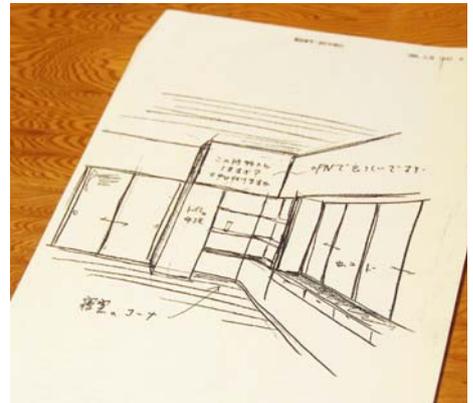


## 第2回 渡邊様/有限会社 加藤美建様



渡邊様の奥様（左）と加藤美建・加藤和司棟梁（右）



施主様に大好評の加藤棟梁直筆スケッチ

加藤美建さんは静岡県伊東市を拠点に、「本物の建築」「木の良さを活かした建築」にこだわり、住宅から神社仏閣、茶室、旅館まで数々の素晴らしい建物を手掛けてこられました。チタン建材にも早くから取り組まれ、沼津の名刹・大中寺の本堂改修工事でも高い評価が寄せられています。

大中寺につきましては改めてご紹介いたしますが、今回は一般住宅にチタンを本格的に活用された先駆けである御殿場の渡邊邸のお話をお伺いします。すでに「チタン建材最新レポート」でもご紹介していますが、このたび加藤美建・加藤和司棟梁のお取り計らいで、施主様からじかにお話を承ることができました。

チタン建材のみにこだわらず、「いい住宅を建てるには、どいういった点が大切であるか」というテーマで幅広くお話いただきましたので、マイホームをお考えのみなさまにもご参考になれば幸いです。

### 建築業者選びは納得のいくまで

——しゃれたお宅ですね。パッと見ただけで普通の住宅とは一味違う。それに中に入れていただいた瞬間、木の香りが漂ってきました。本日は、どうすればこういういい家が建てられるのか、というテーマでお話を伺いたいと思います。

加藤 まず渡邊さんの方から、こういう家を建てたいということで、ご希望を百項目くらい挙げられていました。中でも健康にいいということ、長く持たせたいということが最大のポイントでした。渡邊さんご一家は、建築のことをすごく勉強されていて、木材も一切合板は使わずに自然のもの、特別いいものでなくても本物を使いたいと希望されていました。

渡邊 建物のことはわからないけど、いいと思うものを少しずつ積み上げていけば、住みやすくなるんじゃないかと思っていました。最初は住宅展示場にも足繁く通って、担当の方とも何度も何度も話し合いました。でも、どうも私たちの要望には合わない。それで、こういう家がほしいという要望を箇条書きにして渡したら、それを見た上司の方が、こういう業者さんを紹介するからと言って、何社かご紹介くださいました。

加藤 数ある業者の中から選んでいただいて、嬉しか

ったですね。

渡邊 たいていの会社から、「うちでは全部無垢でというわけにはいかない」と言われました。節だらけでもいいから無垢でという話で進めたところ3社くらいありましたが、意見が加藤さんとぴったり一致しました。施工事例も何箇所か見せてもらって、加藤さんに決めました。こういうふうにしましょうか、ああいうふうにしましょうかっていうのに1年くらい費やして、設計の段階でまた1年くらい。建前をやったのが6月で、次の年の8月に引っ越しました。加藤さんと出会ってから家が建つまで3年くらいかかりました。今で築3年になりますが、住んでみて快適そのものです。いい家ですねって褒められますし。

——とても時間を費やされたのですね。

加藤 うちはどこん話をしますから、どこも長くなります。だけど打ち合わせができたときには、もう家ができたのと同じですね。ただし棟数はできない。自分の目の届く範囲しか責任がもてませんから、一切外注もしない。だからどうしても、1年待てますか、次の次ですよというふうになっちゃう。今も「お宅は予約しておかないとだめだから、5年経ったらこういう家をたてたい」というお客さんがいて、もう2年経ちましたけど、その間に図面を書いたりしますから、



渡邊邸 正面から

お客さんは5年間楽しめますよ。

**渡邊** 私の家も、図面を書いてもらってからできるまで、うんと楽しみましたね。それに、難しい図面や話だけではイメージが湧かないでしょうけど、絵を描いてもらったのでとてもよくわかりました。

**加藤** うちではできるだけ専門的な図面は使わず、話し合いながら何枚も何枚も絵を描きます。それで問題がないとなると、この材料にはこういう欠点とこういう長所があるとか、これは高くしてこれは安くとかを説明していきます。だから坪いくらじゃないんです。これだけのものを使えばこういう値段になりますが、予算が足りなかったらここを落としましょうか、余ったらこうしましょうか、というふうに積み上げていきます。

**渡邊** 自分たちで要望を出して、これはこういうところがダメ、この方がいいよ、と言われながら決めていって正解でしたね。住みよいですし、大事に使いますね。子どもの友だちが家を建てた後で、ああいうふうにしなきゃよかった、って後悔していて、「教えてくれなかったのかね、大工さんは」とか言ってますよ。

**加藤** 渡邊さんの場合は、ご自分でもいいものを探し



打ち合わせに使ったスケッチは、大切に保管なさっています

てこられた。畳にしても中が藁じゃなくてヤシの実の繊維なんです。ふすま紙もホタテ貝の殻を入れたものは健康にいいからって探してこられる。私もそれを拒否しません。何にでもプラスマイナスは必ずありますから、それさえ理解していただければ問題はない。建築業界は「素人が口を挟むな」みたいなのもありますし、途中で変わるのも嫌がりますが、うちはお客さんにいちばん満足していただける家になればいい。臨機応変に対応していかないと、いい家はできないと思っています。

**渡邊** そういうふうにやっていただけてよかったですし、毎日建築現場に通うのも楽しみでしたね。

**加藤** 見られたらケチをつけられるとか言って、施主さんが現場に来るのを嫌う業者もありますね。お茶を持って行ったら、持ってこなくていいと言われたとか。そういう中で施主さんとの腹を割ったキャッチボールがなくなってしまった。1回や2回ではお互いに遠慮があるし、話し合いも数を重ねないと本音は出ない。なのに今は打ち合わせの時間もなくて、建ってから5年も6年も経って、「ああすればよかった」と後悔する。

うちは現場にもできるだけ顔を出してもらいます。暇だったら顔を出して掃除してよ、その方が大工が仕事できるから得だよとか、そこまで全部言いますよ。こっちだって何人も使ってやりますから、気をつけていても目の届かない所が出てくる。それをお客さんに言われると助かります。

## 地元の気候に合った家づくり

**加藤** 渡邊さんは建築に対してすごく理解のできる人なんです。壁にしても、合成の材料を使ったらどんな



庭側から見た渡邊邸

状況で塗っても同じ色が出ますが、自然の材料だと風がずっと流ただけで流れた箇所は乾きが変わるから色ムラが出る。だから、私たちも昔と同じやり方で戸を全部閉め切って塗りますが、何かの拍子に風が入るとそこだけ乾きが変わる。でも今はクロスやプリントばかりだから、塗り壁もいつ塗っても同じ色が出るものだと思っていて、それがクレームになったりします。だけど渡邊さんの場合は、「それは本物だから」と理解していただける。木でも本物は同じ木でも縮み方は違うし目だって違う。説明するのは簡単ですが、それを理解してもらうのが難しい。でも、渡邊さんはすべて理解していただけるので仕事がやりやすかったですね。——渡邊さんは、そういった建築を見る目をどういうふうに養われたのでしょうか。

**渡邊** 家はいちばん大事な買い物です。一生に一度しか買えない。お金はないけどいつかは建てたいという思いが強かったものですから、20年ほど前から、建てるなら無垢材の家を建てたい、国産材を使いたいと言って、展示場に行ったり、住宅情報誌を読んだり、図書館にも行って勉強してきました。木は岐阜県にある「東濃 檜の里」を見に行ったり。だけど、地元の材木屋さんにそれを言うと、そんな家を建てた人はいないし、国産の木じゃ建ちませんと言われました。でも、加藤さんと巡りあえて、めでたし、めでたしでしたね。**加藤** 御殿場という土地柄、結露や湿気の対策も重視されていて、断熱材についても深い知識をお持ちでした。私個人も経験上、従来の断熱材には満足していませんでしたので、ここではリフレティックスを使用しました。NASAで開発された断熱材で、宇宙船に使う無公害の製品です。

熱の移動には対流と伝導と輻射がありますが、これは輻射を利用したものですから、さほど気密にしなくていいんです。夏でも木陰に入ると仕切りがないのにそこだけ涼しいですね。輻射熱というのはそんな原理です。健康にもいいし、リサイクルもできる。だから使い始めましたが、クレームが来たことはありません。

壁土にもシラスを使っていて、その調湿効果もまたいいんです。おむつを中に干してもムツとした臭いがしない。ただ、塗る面積にもよりますが、冬は調湿し

過ぎて乾燥することがあります。そういう場合は床下に水盤を置いたりして湿気を補えばいいですね。

ちなみに私の家は珪藻土の壁を使っています。家のタイプに応じて使い分けるのですが、これらの壁土は調湿や脱臭にすぐれていると思います。ただ、いいということで一時期すごくはやりましたが、たとえば珪藻土を1リットルの中にスプーン1杯しか入れてないのに珪藻土入りだと言って売る会社が出てきたんです。そのおかげで評判が落ちた。私は新しいものが出たからといってもすぐには使わず、直接会ったり、会社に電話して問い合わせたり、自分の家に使ったりして、よく確かめてから使います。リフレティックスにしても福島まで行って自分の目で確認しました。

**渡邊** おかげさまで結露がないんです。御殿場で結露がないってというのは、信じられない話です。この家では、あってもせいぜい風呂場と洗面所くらいですね。

**加藤** 冬は深夜電力を使って2カ所で暖房していますが、少々窓を開けばなしでも寒くない。奥さんは朝4時半くらいに起きられますが、家の中は寒くないのに、表に出たら非常に冷えていて驚いたりとか。大雪が降ったときも、この家だけ屋根の雪が落ちずに1週間くらい残っていました。屋根の雪が落ちるということは、室内の熱が天井から伝わって、屋根と接触している部分の雪が融けるからです。ところがここは熱が逃げていかない。それほど断熱効果がいいんですね。

**渡邊** 御殿場の冬は厳しいんです。屋内でも水道が凍るから、少しずつ水を出しておかないといけなくらいで、ひどいときはトイレの水も凍ります。でもこの家にはそれがなくて、冬でも16℃くらいに保たれますから、夜中に寒くて目があくということもないですね。それに夏は夏で暑くない。5月ころは外気の方が熱いから、開けてちょっと温かくしようとか。湿度も50～60パーセントくらいで快適ですよ。

## チタン屋根になったいきさつ

——材料のことで言いますと、こちらは屋根、水切りほか、いろいろな所にチタンを使ってられますね。

**加藤** 最初はステンレスや銅板という話もありましたが、渡邊さんのご主人は金属加工の仕事されていた方ですので、金属建材の特徴もよくご存知でした。私自身、チタンを扱うのは初めてでしたが、金閣寺の茶室の屋根にチタンを使ったという話を聞いて、実際に施工した板金屋さんから切れ端を送ってもらいました。加工のやり方や特徴も教えてもらって、こちらの板金屋さんに試してもらった。実はそのとき日本鉄板のご担当者から、「初めてだと難しいから、うちから説明して板金業者に回さなければダメだ」と言われましたが、見に来られたときには、うまいと褒められました。やはりいきなり使うのではなくて、折ったり、曲げたり、延ばしたり、試しができたからです。職人は理論や



門の屋根や郵便受にもチタンが使用されています

方程式でなくて経験則ですから、実際に試して結果を出す。その後でデータも調べて、これだったら満足していただけたらと思って提案しました。渡邊さんの方でも金属の特徴はよくご存知でしたから、思った以上にスムーズに理解していただきました。

——棟梁からチタンを使おうという話をお聞きになったときは。

渡邊 名前だけは知っていました。このあたりの屋根は瓦が多いのですが、百年使えるもの、健康にもいいものを作ってください、何かないかしらって加藤さんに申し上げたら、「チタンがあるよ、高価だけど」と言われました。うちは親子ローンを組みましたので、じゃあ何とか頑張ってそれにしよう。たびたび家にお金をかけられないから、最初にお金はかけてもいいものを建てよう。

加藤 チタンの話が出る前から、親子ローンでやるんだからメンテナンスのかからないものというご希望でした。やはりいちばん傷むのは屋根ですね。だったらそこにいちばん神経を使わなきゃいけない。そこにいちばんお金をかけなきゃいけないものがない。同じ意味で、この家は土台を使ってなくて、お寺と同じ伝統的な建て方で、基礎の上に柱を直接立てています。材木は横方向の圧縮に弱いですから、木材を横に組んだ土台の上に柱を立てると、その箇所が圧縮されます。東寺の五重塔で心柱の下を切ったというのも、心柱はそのままなのに、本体で木を横に使った箇所が縮んできたからです。渡邊さんはそんなことまで知っている。モルタルがなぜ結露するかも知っている。モルタルは金ゴテでこすると結露しますが、刷毛でやると結露しない。刷毛でこすると表面が平らじゃないから、空気の触れる面積が大きくなって乾燥が早いんです。だからモルタルは全部刷毛引きでという注文があったり。そこまでご存知だから、今どき勝てる業者なんていませんよ。私たちはお寺とかをやって知っていますが。

ここはお風呂も五右衛門風呂です。五右衛門風呂は下から湯を沸かして対流で全体が温くなる。温泉などで絵になるから見せ湯というのをやりますが、上から落ちた湯は下に行かない。温かいのは上だけです。五右衛門風呂は下から自然に温まりますから、温かさが全然違うし湯持ちもいい。こういうことまでご存知

でした。

渡邊 6時ごろ主人が入って、私は11時ごろ入るのですが、熾きが残っているから、まだうめなきゃいけないくらい。朝4時ごろでも、そのまま入れますよ。

加藤 しかし、ガスや電気の時代に、ここでは五右衛門風呂に入るため薪を燃やしている。すごい努力がいますよ。食べるものにもこだわっていて、毎日玄米を食べる分だけついて炊く。しかも陶器のお釜で炊く。うまいもの食べる、安全なもの食べる、そのため努力する人だからこそ、こういうものに苦もなくお金がかけられる。普通の人だと、健康よりもお金の計算が先で、なればなつたで仕方がない、となるものですが。——いい家を建てるには、やはり施主さん側の取り組み方も大きいんですね。

加藤 うちは熱心なお客さんに恵まれています。あるお客さんは、わざわざ食事会をして、自分はこんな部屋に住んで、こんな器を使っている。こういう生活をしたから、それを理解して設計してくれとおっしゃった。私も同じ考え方で、いつもどういう生活しているのかを見せてもらってから設計します。

電柱1本でも建てようと思わない限り永遠に建たない。家にしても理想の家を建てようと思ったら、計画して、知識をもって、何をもっていい家とするのか、自分の考えをもつ必要がありますね。

逆に勝手な噂を信じて諦めちゃう人もいます。あの家は1億だよ、金がないと断られるとか。実際にはそんなにしないし、何でもやっているのに、勝手に高いと決めつけちゃう。私は設計、施工、監督、掃除からセールスまで自分でやる。今の規模だからできるのですが、人件費だけでもかなりの分が節約できます。社員を教育して、仕事が終わったら15分か20分掃除して、ゴミを片づけて帰れば、掃除を雇う分が浮くわけですし、毎日、現場はきれいですし。事務所も作業場の上に乗っているだけで、別に借りているわけじゃない。

まあ、以前は家なんてセールスするものじゃなかった。お客さんが頼みに来るのが大工なんだと。それがプレハブができて、セールスができて、施主さんも変わってきた。だから逆に情報が狭い。この業界でセールスに回っているのは大手しかないので、大手の情報しか届かない。だから選択範囲といっても同じ系統ばかりです。お客さんも結局自分で業者を選ぶわけですから、同じような考えの業者を選ぶことになりません。家を建てるのに、暮らしや健康に理想を描けない人は、「早く安く」の業者を選びます。

## 家は坪いくらではない

加藤 同級生が家を建てたら、頼んだ大工は階段ができなくて、階段だけ別の大工がやったと言うんです。というのも階段なんて普通は2階建てで1軒に1つ。すると教えているよりできる人がやった方が早い。3、

4人でやっているグループだと一生やらない人もいる。だから階段のできない大工がいてもおかしくない。下の床から上の床まで測って段数で割ればいいんだけど、斜めになっているから差し金を持つとわからなくなる。

現実はそのような状態なのに、この業界は宣伝上手なところがあって、どこに頼んでもできそうなイメージづくりがうまいんです。細かい説明はなしで、写真だけ見せて、うちに頼めば安心ですみたいな。その上、「坪何十何万円ですみますよ」と宣伝するから、じゃあ安い方がいいか、となくなってしまふ。だけど実際はそうじゃないし、ましてや屋根をむくらせたりとかいった美意識のある家を建てた経験のある職人も少ないんです。渡邊 近所でも分譲地に家を建てていますけど、建前にも来ない。建前から2カ月半で住める、坪何十何万で建つ。それだけで決まりなんです。でも、実際にはあれもこれもオプションで、結局は倍くらいになる。

加藤 うちにも若い人が電話をかけてきて、いきなり「もしもし、お宅、坪いくら」とか言ってくる。「家というのはね、どういう家を建てたいか、何と何を使うかを決めて初めて単価が出るんだ。結果として坪単価にはなるけど、最初から坪単価で決めちゃダメなんだよ」と説明しますが、だいたいそういう人は二度と電話はかけてこない。私はよく「食堂に入って、お宅いくらって言いますか？」って言うんです。何を食べるか決めてからいくらってなるのに、建築の場合だけ、いきなり坪いくらになってしまう。

台所や水回りには費用がかかりますから、総面積が小さければその分坪単価は高くなります。部屋が増えていく場合は逆ですね。業界で坪いくらという場合、37、38坪くらいの坪数が基準です。それはあくまでも目安で、要は何を使いたいかで決まる。いろいろと注文すると、どこで建ててもそんな安くならないですね。

やはり、いい家を建てたいと思ってるだけではいい情報には巡り合えない。逆に渡邊さんみたいに実際に回って、お宅の家はできません、と言わせるくらいに質問すれば、必ず後悔しない家ができると思いますよ。

不思議に思うのは、子どもの進学は真剣に考える。車買うときも、装備がいいから高くてもこれがいいとなる。だけど家については長いローンを組むはずなのに狭い範囲からしか選ばない。

## いい材料といい家は違う

——本物にこだわられたということですが、今は本物というだけで、高いものという感じがしますけれど。

加藤 本物イコール高いと思われがちですが、本物だから高いじゃなくて、寿司で言うと大トロみたいな部分は高くなる。しかし、普通の住宅にはそこまで高級な材料を要求しなくてもいいんじゃないか、とにかく本物であって劣化の遅い家、身体にいい家にしたいというのが渡邊さんと私の共通の考えでした。



——とはいえ、居間の入口の柱は太くて高級そうですね。障子も普通のものよりかなり背丈がありますね。

加藤 ここは家の中心ですから、天井も高くして圧迫感のないものにしようということです。長尺物を使う場合、材料の仕様によっては、値段もすぐ倍々になります。だけどこの家では真ん中クラスを使っています。普通なら赤味だけで揃えますけど、赤味だけ、いわば大トロだけとなると値段が2、3倍になってしまふ。しかし、国産材は時が経つと紫外線にあたって焼けてくるから色がわからなくなる。長い目で見たら高いものでなくても本物だったら本物の味が出るからいいんじゃないかと。そういう所でコストダウンしています。

高くなりますけどいい材料を使います、って言う方が簡単です。だけど、いい木といい家、いい材料といい家というのは別なんです。そこは明確に区別しています。お金さえ出せば、いい材料はいくらでも手に入る。だけど、いい家というのは値段じゃなくて、住み心地がよく、体に害がなくて健康にもよく、家族の安全を守ってくれる家ですね。

今は量産住宅や量産建材が出てきて、そういう中でシックハウスやアレルギーなどの問題も起こるようになってきました。だけど以前のように時間をかけて家を建てていた時代にはこんな問題なんてなかったはず。私の実家は昭和4年に建てられましたが、今も何ら問題はありませんし、気持ちよく暮らせています。

たとえば火災現場でも、昔みたいに芯持材の柱だと外側は燃えても芯だけが残るのですが、集成材の柱だと貼り合わせている接着剤がすぐ燃えるため、建物が崩れやすいんですね。その結果、これくらいの火の回り方だったら大丈夫だと思って助けに行った消防士が下敷きになるといふ悲惨な事故も起こっています。

それに元々日本建築は上から下に差していく工法です。全部臍を作って差していきますので、極端に言う

と臍でもっている。なのに建材の実験データは、集成材でも臍のつけてないもので圧縮や曲げモーメントなどを測るんです。加工していない集成材は確かに強い。ところが臍を付けると弱くなる。実際に必要なものは、加工して建てる状態にしたときの曲げや圧縮のデータなのに、その肝心なデータがない。だけどデータ上はいい木だと。そういうこともすべて考えると、節があっても本物の無垢材の方が絶対にいいですね。

**渡邊** お風呂で薪を燃やすときも、節がある方が割れませんものね。ないのはもうスポッと割れる。

**加藤** 節があってもやはり本物は腐っても鯛ですね。木にはすぐれた調湿能力があって、柱1本でビール瓶1本くらいの調湿をします。ただそのとき空気と作用し合っているのは表面から2、3ミリで、それより下は何も作用していません。だから3ミリくらい削ると、新しい木と同じような匂いがする。お寺などで百年経っても木の香りがするというのもそういうことです。

150年経ったお寺を水で洗うこともあるんです。梁なんかも埃が何ミリも積もっていますから、洗った方が早いですね。経験のない人は、古い木を洗ったらスポンジに水をくれるようなものと反対しますが、洗った後、サッと拭けば水は中に入らない。やはりそれも表面から2、3ミリの話なんです。

面白いもので、木は横にしていると1カ月経っても2カ月経っても乾きませんが、根の部分を上にして立てるとすぐに乾きます。引力の作用もありますが、木にも弁のような仕組みがあるんですね。新月の木がいいと言うのも本当です。これは月の引力の関係です。潮の満ち引きもそうですし、人間のお産も月の引力と関係がありますね。大きな地震が起きるのも、何か関係があると言われますね。

杉にはタンニンが含まれているから黒いものが出てきます。だけど、タンニンがあるから丈夫ですし、タンニンは虫除けにもなるから、シロアリも絶対に杉の赤身を食わない。それを今、乾燥させることばかり気にして、木の成分を装置を使って抜いてしまう。それで結局は、木が自分の身を守ろうとする力を奪ってしまっている。家づくりも木のことを勉強せずに、自然の理に逆らっちゃうとよくないですね。

**渡邊** 御殿場には裕福な人も多くて家にもお金を使うんです。次男がいい家つくった。うちが本家だから、あれ以上のいい家を建てるんだとか。うちはシンプルだねって言われて、はい、お金がないからって。

**加藤** 何をもっていい家とするのか。値段の高さしか物差しがなく、材料のいい家がいい家だという感覚だから、大理石を使えばいい、無節を使えばいいとなる。うちは床柱がいくらだよ、うちの柱は5寸角だよとか単品を誇るしかない。建前に来ても見る所は柱しかない。柱を見たら節があるかないか、太い細いとかしかない。それであれはいい家だと評判になっちゃう。バランスや住みよさには関心がなくて、空気の流れも考

えない、光も考えない、結露のことも考えない。今は木材もプレカットが多く、業者の方でも材料のことを知らない人が多くなっていて、選別能力もないから余計そうになって、納戸の敷居まで節なしがいい、柱も太ければ太いほどいい、とになってしまう。うちは必要な部分には高い材料を使っても、必要のない所はいいじゃないかという考え方です。そうやってメリハリをつけるから、見た目は高級でも意外と安くできるんです。

職人の強みは経験則ですが、それも怪しくなってきました。私の修業のころは家の解体も大工がやりましたから、壊しに行くと、どういう所がどういうふうに傷むとか、この釘の角度はダメだとか、この水切りの立ち上がりではダメだ、毛細管現象で水が上がってくるとか1つ1つ学びました。今は大工が行かずに機械で壊すから、そういうことが経験として見られない。大工に高い手間賃を払って壊させてくれるお客さんもいない。

それに大工も自分の作った家に住まないでダメですね。戸袋の向き1つでも使い勝手があって、見た目だけを考えて使いにくいものになる。やはり実際に自分で作ってみて、住んでみて、ようやくわかる。経験則を持っているか持っていないかで、職人の気遣いが違うんです。こういうのをやったらお客さんは喜ばないとか、これだと不健康になって悪いとか、その気遣いがなかったら、いいものなんてできません。

やはり、何をもっていい家とするかというのは、とても難しい問題ですね。人それぞれ判断基準が違いますから、まずは同じ価値観を共有できる業者と出会えるよう努力することだと思います。ただ時代的には、せめて二代は住める家を考えていきたいですし、地球環境的な視点も大事だと思っています。

——一生に一度、いや二生に一度の買い物で、いい棟梁に巡り合われて、本当に素晴らしい家をお建てになりましたね。やはりそれは時間をかけて取り組まれて、よく研究なさったからですね。

**渡邊** 加藤さんとの巡り合いに感謝しています。

——今日はどうもありがとうございました。

〈有限会社 加藤美建様ホームページ〉

<http://www.katoubiken.jp/>



加藤美建様の施工事例（静岡県伊東市個人邸）。むくりの屋根の優美な曲線に、棟梁の技術とセンスが発揮されています